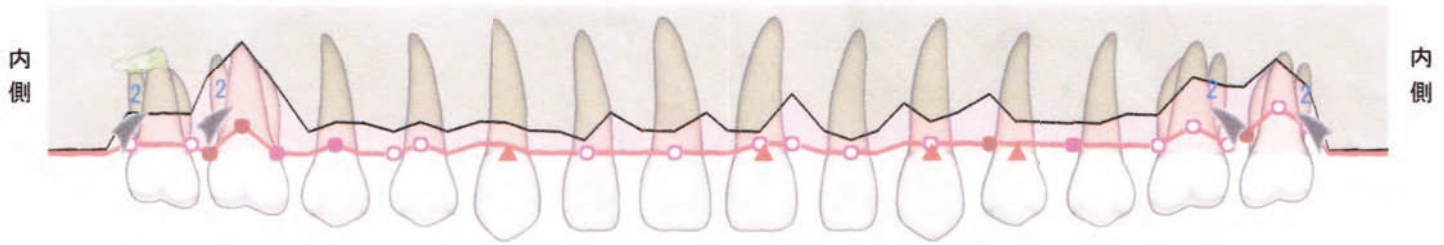
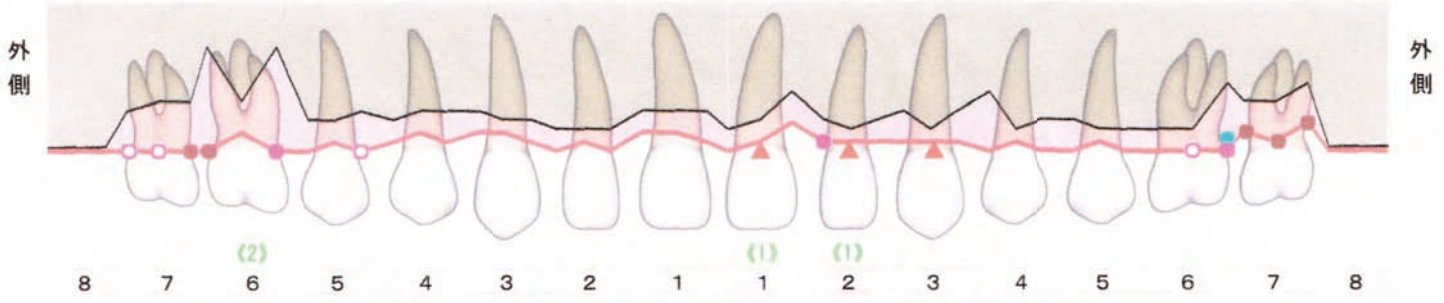
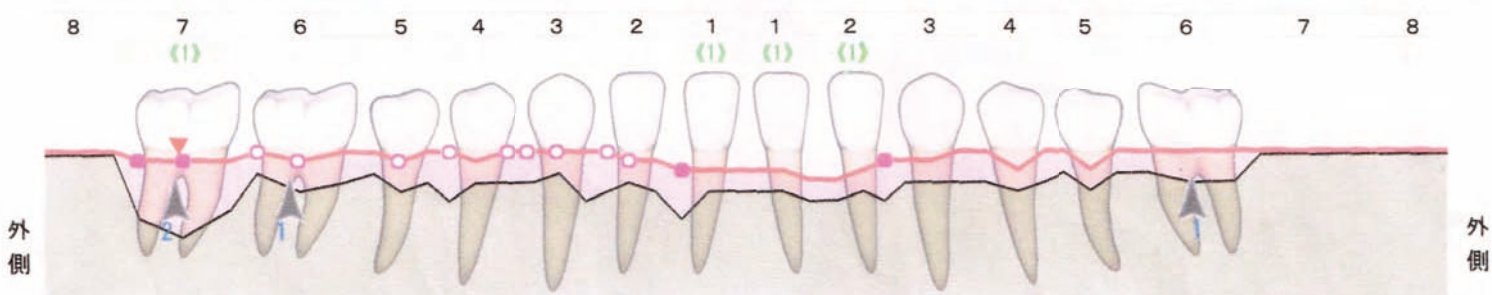
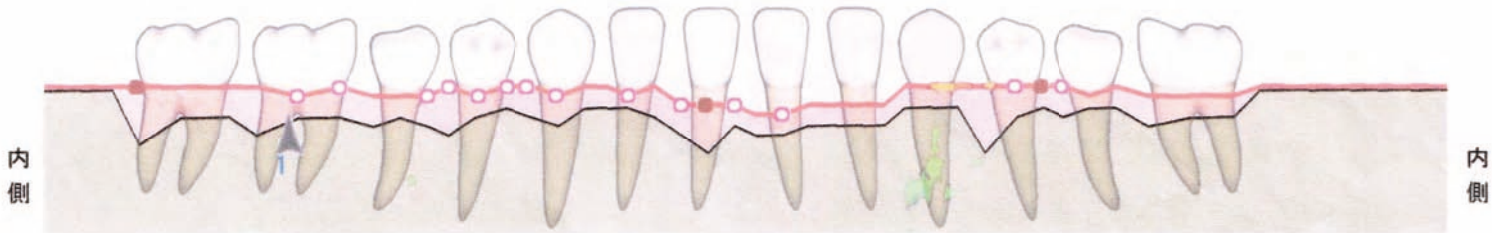


歯周に関わるお口の状態（正面観）  
（ポケットの深さに注意してご覧ください）

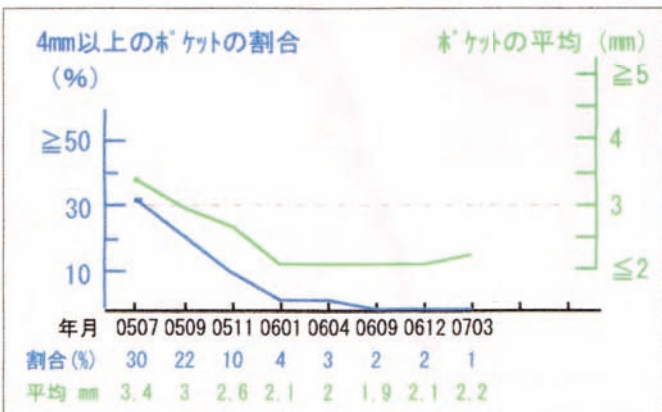
衛生士 DH2



外	4	5	5	11	3	11	3	2	4	2	2	3	2	1	2	2	1	2	2	2	3	2	2	3	2	1	2	3	1	3	6	1	3	3	1	2	2	2	7	3	4	4
内	3	3	3	8	10	7	2	2	3	2	2	2	2	2	2	1	4	2	2	4	2	1	5	2	1	2	4	2	3	5	2	2	2	2	3	3	5	6	5	5	4	
左	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	右																	
内	6	3	3	5	2	3	3	2	3	5	2	2	3	3	2	2	1	3	3	5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
外	6	8	5	2	3	3	2	3	5	2	3	3	2	5	4	2	3	5	2	2	2	2	2	4	2	2	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	3	3			



歯周ポケット測定値 1~3    4~5    6~8    9~    ポケット値のアンダーライン: 前回検査より 2mm以上、青-改善、赤-悪化  
4mm以上 22(%) 平均 3mm    前回検査 2005年 7月 8日 19(12%) 8(5%)



歯周病は、歯と歯を支える組織の間にかかる歯ぐきの病気です。プラークが歯と歯ぐきの境目に侵入した際の炎症（歯肉炎）により歯周組織が破壊されることで、その程度は歯周ポケットの深さによって測られます。

一般的に、3mm までが正常値で、それを超えると病的である可能性があります。

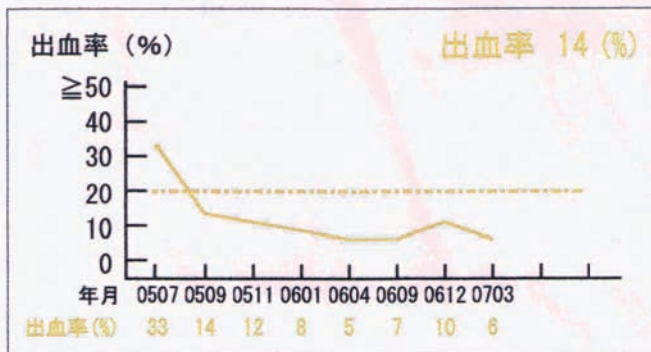
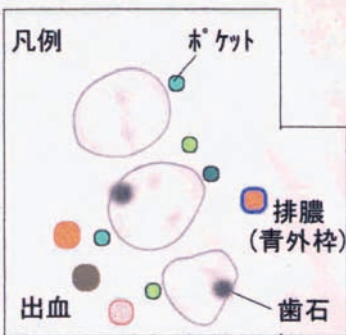
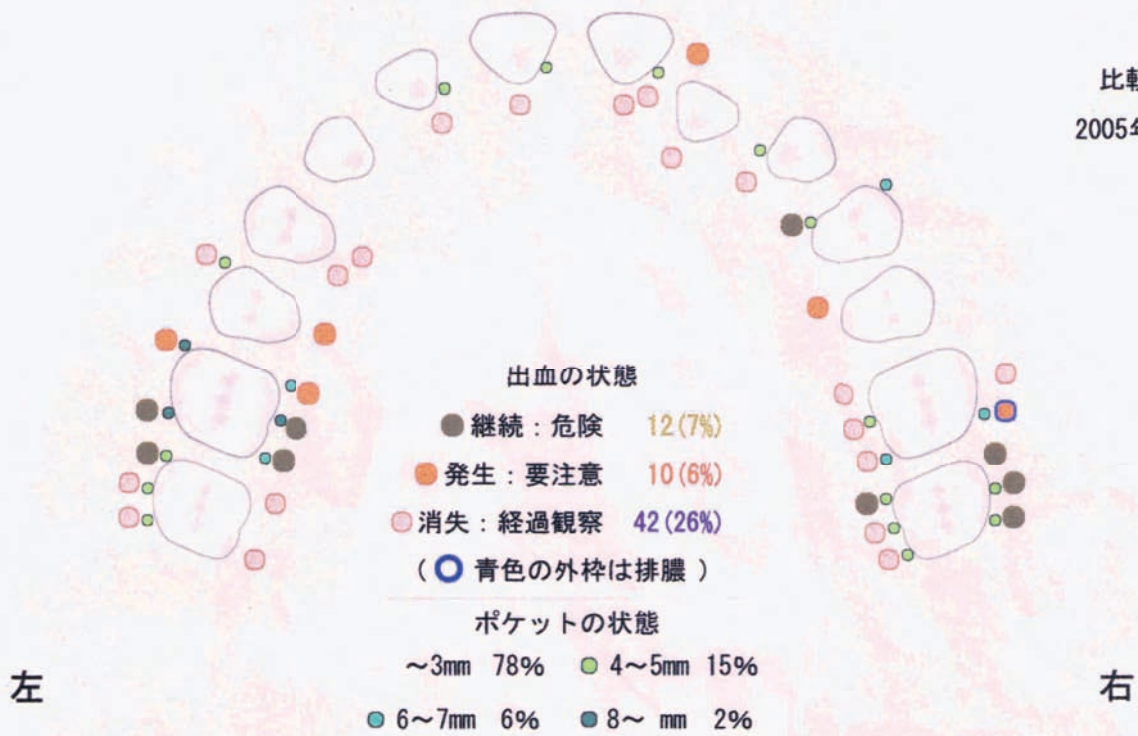
歯周ポケットの深さは歯周病の程度だけでなくお手入れの難しさにも関わります。

一般的にポケットの平均が 3mm を超えたり、4mm以上のポケット率が 30%以上 の場合は要注意です。またポケット値が前回より深くなっている場合は歯周病が進行している可能性がありますので、特に注意が必要です。

歯周に関わるお口の状態（咬合面観）  
（出血の場所に注意してご覧ください）

05年9月12日、再評価  
衛生士 DH 2

比較参照記録  
2005年 7月 8日  
初回検査



プラークから放出される毒素や細菌は歯肉での免疫機能で処理されます。しかし、毒素や細菌が優勢になったり、免疫機能が低下するとそこに炎症が発生します。これを歯肉炎といいます。歯肉炎は、歯ぐきからの出血により確認することが出来ます。歯肉炎は歯周病が進行中であることを意味していますので、出血が認められる場合にはポケットが浅くても注意が必要です。出血の続いている箇所は歯周病が進行しやすいので特に警戒してください。

出血率の要注意値は概ね 20% 程度ですが個人差があります。体質や喫煙の有無などによって変化します。